

I 調査対象者の属性

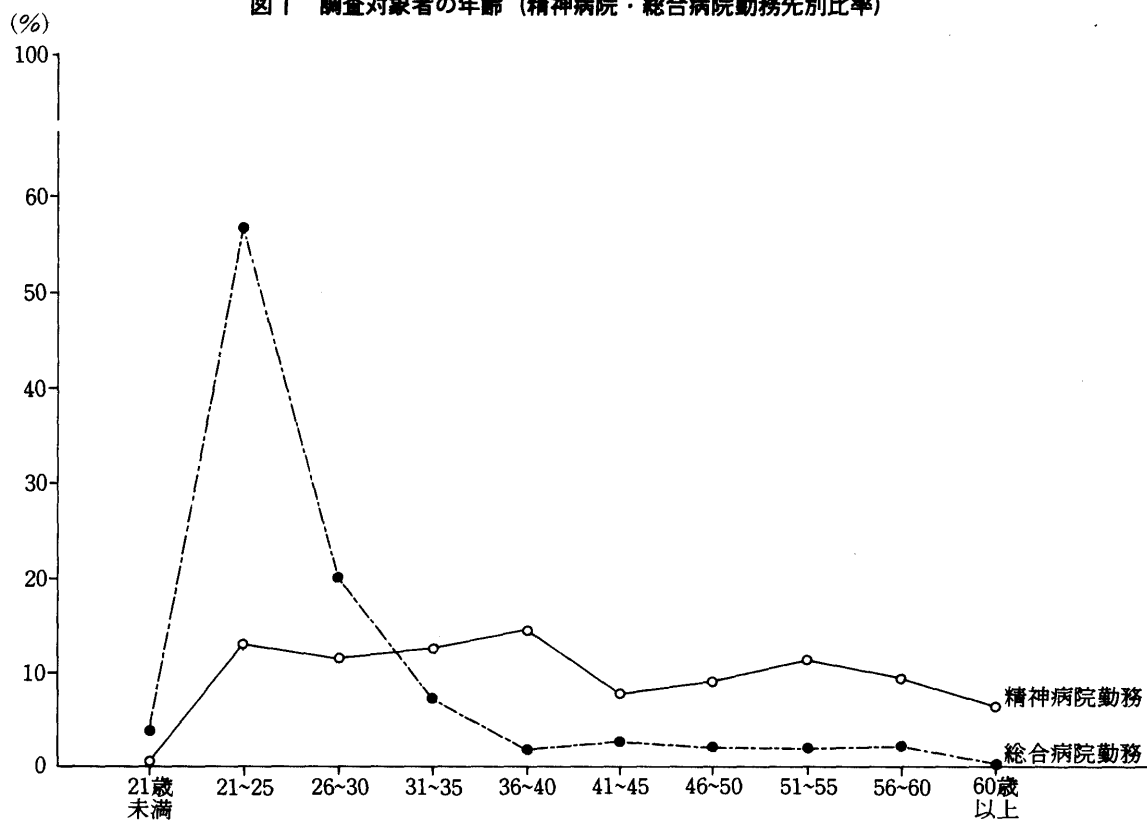
(1) 年 齢

調査対象者の平均年齢は、全体38.5歳、精神病院勤務者40.7歳、総合病院勤務者27.5歳となっており、精神病院勤務者の方がはるかに平均年齢が高い（表1）。また、年代別にみると20代の占める割合が高いが、その割合の多くを占めているのが、総合病院勤務者である。総合病

表1 年 齢

	21歳未満	21~25	26~30	31~35	36~40	41~45	46~50	51~55	56~60	60歳以上	無回答	平均年齢
全 体	14 (1.9)	159 (21.1)	102 (13.5)	89 (11.8)	95 (12.6)	53 (7.0)	60 (8.0)	75 (9.9)	64 (8.5)	42 (5.6)	1 (0.1)	38.3
総 合	5 (3.6)	78 (56.5)	29 (21.0)	10 (7.2)	3 (2.2)	4 (2.9)	3 (2.2)	3 (2.2)	3 (2.2)	0 (0.0)	0 (0.0)	27.5
精 神	9 (1.5)	81 (13.1)	73 (11.9)	79 (12.8)	92 (14.9)	49 (8.0)	57 (9.3)	72 (11.7)	61 (9.9)	42 (6.8)	1 (0.2)	40.7

図1 調査対象者の年齢（精神病院・総合病院勤務先別比率）



院勤務者は、30歳未満が全体の約8割を占めており、年齢が高くなるに従って勤務者の割合が少なくなっている。精神病院勤務者は、30歳以上の勤務者が7割以上を占めており、高年齢の看護婦（士）が多いのが特徴である。全体の平均年齢38.3歳は、日本看護協会会員（昭和60年）の平均年齢35.2歳より高いが、これは、今回の調査対象に精神病院勤務者が多いからである。また、日本看護協会会員で精神科勤務のみの平均年齢は42.3歳であり、今回の調査対象となった精神病院勤務者の平均年齢と比べて大きな差はない。しかし、総合病院勤務者の平均年齢は、日本看護協会会員全体と比べると、若いのが特徴である。（表1、図1）。

(2) 性 別

性別は、全体的にみて男性が2割を占めているが、ほとんどが、精神病院勤務者である（表2）。

(3) 現在の病棟・施設での勤務年数

現在の病棟・部署での勤務年数は、1年から5年までが最も多い。また、6年から10年の勤務者は、総合病院勤務者にその割合が高い（表3）。

現在の職場での勤務年数は、1年から5年までが最も高い。また、総合病院勤務者に比べて精神病院勤務者の方が、勤務年数が長い（表4）。

表2 性 別

	男	女	無回答
全 体	156 (20.7)	592 (78.5)	8 (0.8)
総 合	1 (0.7)	137 (99.3)	0 (0.0)
精 神	155 (25.2)	455 (73.9)	6 (0.9)

表3 現在の病棟・部署での勤務年数

年数	1 ~ 5	6 ~ 10	11 ~ 15	16 ~ 20	21 ~ 25	26 ~ 30	31 ~ 35	36 ~ 40	無回答
全 体	651 (86.3)	59 (8.0)	18 (2.4)	8 (1.1)	7 (0.9)	1 (0.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	10 (1.2)
総 合	109 (79.0)	25 (18.0)	2 (1.4)	1 (0.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.7)
精 神	542 (88.0)	34 (5.5)	16 (2.6)	7 (1.2)	7 (1.1)	1 (0.2)	0 (0.0)	0 (0.0)	9 (1.4)

表4 現在の職場での勤務年数

年数	1 ~ 5	6 ~ 10	11 ~ 15	16 ~ 20	21 ~ 25	26 ~ 30	31 ~ 35	36 ~ 40	無回答
全 体	386 (51.2)	137 (18.1)	94 (12.5)	61 (8.1)	25 (3.4)	16 (2.1)	10 (1.3)	2 (0.3)	23 (3.0)
総 合	86 (62.4)	31 (23.5)	8 (5.7)	3 (2.1)	2 (1.4)	1 (0.7)	1 (0.7)	0 (0.0)	6 (4.3)
精 神	300 (48.9)	106 (17.2)	86 (14.0)	58 (9.3)	23 (3.7)	15 (2.4)	9 (1.5)	2 (0.3)	17 (2.8)

表5 病院、施設をかわった経験の有無

(4) 病院・施設をかわった経験

病院あるいは施設をかわった経験が有ると答えているものは、精神病院勤務者に圧倒的に多い(表5)。年齢別にみると、精神病院勤務者の30代以上にその割合が顕著である(表6)。

	あり	なし	無回答
全体	442 (58.6)	310 (41.1)	2 (0.3)
総合	32 (23.2)	106 (76.8)	0 (0.0)
精神	410 (66.6)	204 (33.1)	2 (0.3)

表6 病院・施設をかわった経験・年齢別

		21歳未満	21~25	26~30	31~35	36~40	41~45	46~50	51~55	56~60	60歳以上	無回答
全体	あり	3 (0.7)	28 (6.3)	41 (9.3)	50 (11.3)	71 (16.1)	45 (10.2)	46 (10.4)	65 (14.7)	58 (13.2)	34 (7.7)	3 (0.1)
	なし	11 (3.5)	131 (42.3)	60 (19.4)	39 (12.6)	24 (7.7)	7 (2.3)	14 (4.5)	10 (3.2)	6 (1.9)	8 (2.6)	
総合	あり	2 (6.3)	4 (12.5)	6 (18.8)	5 (15.6)	3 (9.4)	4 (12.5)	2 (6.3)	3 (9.4)	3 (9.4)	0 (0.0)	0 (0.0)
	なし	3 (2.8)	74 (69.8)	23 (21.7)	5 (4.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.9)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	
精神	あり	1 (0.2)	24 (5.9)	35 (8.6)	45 (11.0)	68 (16.6)	41 (10.0)	44 (10.8)	62 (15.2)	55 (13.4)	34 (8.3)	0 (0.2)
	なし	8 (3.9)	57 (29.7)	37 (18.1)	34 (16.7)	24 (11.8)	7 (3.4)	13 (6.4)	10 (4.9)	6 (2.9)	8 (3.9)	

現在の病院は、何度目の職場かを問うたところ、全体的に無解答の割合が高いが、1回目から5回目までは、精神病院勤務者が総合病院の2倍以上の比率を示めている。また精神病院勤務者の中には、6回目から10回目と回答している者が、4.9%もいる事から、精神病院勤務者は病院・施設をかわった経験が多いということがわかる(表7)。

表7 病院・施設をかわった回数

	1~5	6~10	無回答
全体	398 (52.8)	30 (4.0)	326 (43.2)
総合	30 (21.7)	0 (0.0)	108 (78.3)
精神	368 (59.7)	30 (4.9)	218 (35.5)

(5) 看護職としての勤務年数

看護職としての平均勤務年数は、総合病院勤務者より、精神病院勤務の方が長い。これは、精神病院勤務の方が平均年齢が高いので当然である(表8)。

(6) 配偶者・子供の有無

配偶者を持っている割合は、全体で5割強である。その中でも総合病院勤務者よりも、精神病院勤務の方が配偶者を持っている割合が高い(表9)。

子供の有無についても、全体の5割強の対象者が持っているが、その多くが、精神病院勤務者である。総合病院勤務者に比べ、精神病院勤務の方が、配偶者・子供を持っている割合が

表8 看護職としての勤務年数

通算年数	全体	総合	精神	通算年数	全体	総合	精神	通算年数	全体	総合	精神
1 ~ 5	176 (23.4)	83 (60.2)	93 (15.0)	21 ~ 25	70 (9.3)	2 (1.4)	68 (11.0)	41 ~ 45	3 (0.4)	0 (0.0)	3 (0.5)
6 ~ 10	125 (19.0)	26 (18.8)	99 (16.0)	26 ~ 30	69 (9.1)	3 (2.2)	66 (10.7)	46 ~ 50	2 (0.2)	0 (0.0)	2 (0.4)
11 ~ 15	123 (16.3)	8 (5.9)	115 (18.7)	31 ~ 35	26 (3.5)	2 (1.4)	24 (3.8)	無回答	40 (2.8)	6 (4.3)	34 (5.6)
16 ~ 20	98 (13.0)	7 (5.1)	91 (14.8)	36 ~ 40	22 (2.9)	1 (0.7)	21 (3.4)				

高いのは、精神病院勤務者の方が平均年齢が高いため、当然の結果であるといえよう (表10)。

(7) 職位・勤務形態

職位は、全体の8割強が、一般職である。また精神病院勤務者よりも総合病院勤務者の方が一般職の割合が高い。これは、精神病院勤務者に、中間管理職の割合が高いためである (表11)。

勤務形態はほとんどが正職員である。また総合病院勤務者の中にはパートタイムはいないのが特徴である (表12)。

(8) 夜勤回数

この夜勤回数は、昭和62年9月の夜勤回数であり、当直や自宅待機等は、除外した。準夜勤では、精神病院勤務者の方が僅かではあるが回数が多い。また深夜勤では、僅かであるが総合病院勤務者の方が回数が多い。準夜勤に深夜勤の回数を加えた数が、1ヶ月の夜勤回数となる (表13)。日本看護協会会員の昭和60年9月の調査結果では、夜勤回数8回と答えた割合が最も高く、平均夜勤回数は、9.1回であった。この結果から、今回の調査対象の夜勤回数は、60年9月の調査結果の平均よりもやや少ないのが特徴である。

表9 配偶者の有無

	あり	なし	無回答
全体	418 (55.4)	329 (43.6)	7 (1.0)
総合	30 (21.6)	107 (77.8)	1 (0.6)
精神	388 (63.0)	222 (36.0)	6 (1.0)

表10 子どもの有無

	あり	なし	無回答
全体	418 (55.4)	332 (44.4)	4 (0.5)
総合	14 (10.1)	123 (89.1)	1 (0.8)
精神	404 (65.6)	209 (33.9)	3 (0.5)

表11 現在の職位

	一般職	中間管理職	管理職	無回答
全体	644 (85.4)	83 (11.0)	11 (1.5)	16 (2.1)
総合	127 (91.7)	9 (6.7)	1 (0.8)	1 (0.8)
精神	517 (83.9)	74 (12.0)	10 (1.6)	15 (2.4)

表12 現在の勤務形態

	正社員	パートタイム	無回答
全体	730 (96.8)	19 (2.5)	5 (0.7)
総合	136 (98.6)	0 (0.0)	2 (1.4)
精神	594 (96.4)	19 (3.1)	3 (0.5)

表13 夜勤回数

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	無回答
準 夜 勤	全 体	12 (1.6)	46 (6.1)	45 (6.0)	245 (32.5)	166 (22.0)	54 (7.2)	12 (1.6)	17 (2.3)	3 (0.4)	4 (0.5)	0 (0.0)	1 (0.1)	149 (19.8)
	総 合	2 (1.4)	9 (6.5)	8 (5.8)	69 (50.0)	24 (17.4)	10 (7.2)	1 (0.7)	1 (0.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	14 (10.4)
	精 神	10 (1.6)	37 (6.0)	37 (6.0)	176 (28.6)	142 (23.1)	44 (7.1)	11 (1.8)	16 (2.6)	3 (0.5)	4 (0.6)	0 (0.0)	1 (0.2)	135 (21.9)
深 夜 勤	全 体	12 (1.6)	48 (6.4)	50 (6.6)	210 (27.9)	181 (24.0)	64 (8.5)	21 (2.8)	24 (3.2)	1 (0.1)	3 (0.4)	1 (0.1)	1 (0.1)	138 (18.3)
	総 合	1 (0.7)	5 (3.6)	14 (10.1)	63 (45.7)	21 (15.2)	17 (12.3)	1 (0.7)	1 (0.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	15 (10.8)
	精 神	11 (1.8)	43 (7.0)	36 (5.8)	147 (23.9)	160 (26.0)	47 (7.6)	20 (3.2)	23 (3.7)	1 (0.2)	3 (0.5)	1 (0.2)	1 (0.2)	123 (20.0)

(9) 所持免許

看護婦免許所持者は、精神病院勤務者よりも総合病院勤務者の方が多い。しかし、保健婦・助産婦免許所持者は、精神病院勤務者の方が多い。准看護婦免許については、大きな差はみられない(表14)。

表14 所持免許

(複数回答)

		看護婦	保健婦	助産婦	准看護婦
全 夜 勤	全 体	488 (64.7)	18 (2.4)	27 (3.6)	324 (43.0)
	総 合	107 (76.9)	2 (1.5)	3 (2.3)	59 (43.4)
	精 神	381 (61.9)	16 (2.6)	24 (3.9)	265 (43.0)

Ⅱ 尺度の構成と信頼性

(1) 生活出来事尺度

生活出来事とは、日常生活の中で起こるストレス性の高い出来事である。1967年に Holmes, T.H と Rahe, R.H らは、社会的再適応評定尺度 (Social Readjustment Rating Scale, SRRS) に関する研究を発表している。

これは、大別してその人自身を巻き添えにする生活上の事件 (Life event) とその人の生活習慣の変化 (Life style) のタイプから成り各項目は、その出現が生活のパターンに重要な変化を要求するものか、あるいは、重要な変化のしるしであるかのいずれかを現わすものとなっている。

今回、生活出来事尺度として仕事上の生活出来事と、私生活での生活出来事に分類した質問項目を作成した。回答肢は、「なかった (事件)」「この3ヶ月以内にあった」「この1年以内にあった」という3項目を設定した。